

千葉県シニア委員会
審判講習会

2024年度

目次

➤ 審判講習会の目的	• ----- 3ページ
➤ 審判技術の向上の意義	• ----- 4ページ
➤ 講習内容	• ----- 5ページ
➤ 講習会日程	• ----- 6ページ
➤ 講習会タイムスケジュール	• ----- 7ページ
➤ 参考資料（競技規則）	• ----- 8ページ

➤ 審判講習会の目的

シニア委員会主催のゲームに携わる審判員の技術・能力の向上と怪我をしないさせないプレーの徹底を目指すと共に、多くの審判員が同じレベルでゲームに望めるようにするため、さらに選手の安全確保を図るために怪我への処置、対応等についての理解を深める講習会とする。

【具体的な指導内容の要望】

- ① 審判能力向上(3級以上、3級以上の能力の有する者)を意識した講習会
- ② 怪我をしない、させないプレーの意識
- ③ 主審は争点の近くでのジャッジ
- ④ アシスタントとの連携
- ⑤ 24年度規則変更・更新内容の具体的な事例・H.P【JFA規則】の確認
- ⑥ ペナルティー内での反則の確認
＜DOGSOとSPAの判定とPA内での適用の確認＞

➤ 審判技術の向上の意義

審判員の技術・能力の向上を図ることで以下の成果を期待する

- ・ リスペクト精神の浸透
- ・ 安心、安全な活動の維持
- ・ 選手技術の向上

➤ 講習内容

1. 審判実技による講評⇒相互審判員（主審、副審、第4の審判員※）
技術の向上を目指す。※第4の審判員は本部の役割
2. 怪我人を出さないための処置、対応を習得する。
3. 主審と反則の位置を記録する⇒適切なポジションを把握し審判員としての動きを習得する。
4. 試合後、全員で反省会を実施し、良い点、改善点を見出し更なるスキルアップを図る。

➤ 講習会日程

6

【講習会の流れ】

1. 試合前に講師より、審判としての心構え、視点等のご説明
2. 主審、アシスタントによる試合前ミーティング内容確認
3. 講習参加者と共に試合観戦
主審のトレース（動き方、視点等、副審との位置取り）
4. 試合後にディスカッション（質疑応答）
5. 講師による総括（気づき事項補足）

#	日付	時間	講習対象試合	会場	講師	実績/予定 154/232
①	8/24(土)	8:00-12:00	第2、第4	市原スポレクB	高萩守、石垣雄市	46/47, 23/32
②	雨天グラウンド不良により中止					0/35, 0/28
③	9/1(日)	8:00-12:00	第2、第4	天台A	高萩守、安藤学	42/46, 43/44

申込連絡ナシ：市原シニア、ECアスレタ、葛城クラブ

➤ 講習会タイムスケジュール

講習No	開始時刻	終了時刻	予定内容
1	8:00	8:15	受付/説明
	8:15	8:25	【講習会の流れ】 1.-2.
	8:40	9:35	【講習会の流れ】 3.
	9:35	9:50	【講習会の流れ】 4.-5.
2	10:00	10:15	受付/説明
	10:15	10:25	【講習会の流れ】 1.-2.
	10:40	11:35	【講習会の流れ】 3.
	11:35	11:50	【講習会の流れ】 4.-5.

➤ 参考資料（競技規則）

2024/25年サッカー競技規則(日本語版) PDF版を公開

関連情報

•[競技規則](#)

•<https://youtu.be/UbDBPln8KxU>

•[law_soccer_240523_01.pdf \(jfa.jp\)](#) 2024/25年 競技規則の変更

•[law_soccer_240523_02.pdf \(jfa.jp\)](#)

[サッカー競技規則2023/24 | 日本サッカー協会 \(jfa.jp\)](#)

[サッカー競技規則2023/24\(ファイルサイズ:10MByte\)](#)

[2023/24年競技規則の主な修正リスト](#)

➤ 2024年度 シニア委員会審判講習会報告書

1. 目的

シニア委員会主催のゲームに携わる審判員の技術・能力の向上と怪我をしないさせないプレーの徹底を目指すと共に、多くの審判員が同じレベルでゲームに望めるようにするため、さらに選手の安全確保を図るために怪我への処置、対応等についての理解を深める講習会とする

【具体的な指導内容の要望】

- ① 審判能力向上(3級以上、3級以上の能力の有する者)を意識した講習会
- ② 怪我をしない、させないプレーの意識
- ③ 主審は争点の近くでのジャッジ
- ④ アシスタントとの連携
- ⑤ 24年度規則変更・更新内容の具体的な事例・H.P【JFA規則】の確認
- ⑥ ペナルティー内での反則の確認
＜DOGSOとSPAの判定とPA内での適用の確認＞

➤ 2024年度 シニア委員会審判講習会報告書

10

2. 講習内容

- ①審判実技による講評⇒相互審判員（主審、副審、第4の審判員※）技術の向上を目指す
※第4の審判員は本部の役割
- ②怪我人を出さないための処置、対応を習得する
- ③主審と反則の位置を記録する⇒適切なポジションを把握し審判員としての動きを習得する
- ④試合後、全員で反省会を実施し、良い点、改善点を見出し更なるスキルアップを図る

3. 講師講評〈最終日講師：2級審判員安藤様より〉

①事前ミーティング

出来ること出来ないことの共有(PA内、ライン際ファールサポートなど)、ゴールライン・タッチジャッジ、オフサイド、ファールスロー、フリーキックアシスタント、対戦チーム・ユニフォームの確認、第4審確認（シニアでは本部代行のため事前に本部と飲水や試合球などの打ち合わせが必要）

※ファールサポートで微妙な場合のジェスチャーなど決めておくとい

➤ 2024年度 シニア委員会審判講習会報告書

11

3. 講師講評〈最終日講師：2級審判員安藤様より〉

②主審について

頭部を打っている場合はインプレー中においても中断判断して構わない

近すぎるポジショニングの弊害として、攻守の切り替えが早いおよびロングボール多用な試合展開に対応が難しい

⇒前後よりも横への動きで対応する

逆に争点が離れすぎるポジショニングの弊害として、適切なジャッジができないことと説得力の無さにつながり試合が荒れる

⇒争点としてアシスタントレフリーとの挟み込みと合わせ10m以内を目指す

笛の強弱を変えることでこちらの意思が選手に伝わる

交替時のシグナル確認

⇒アウトオブプレーの際に本部に視線を向ける

➤ 2024年度 シニア委員会審判講習会報告書

12

3. 講師講評＜最終日講師：2級審判員安藤様より＞

③アシスタントレフリーについて

キーパーと攻撃選手との接触を未然に防ぐための早めのフラッグあげ

⇒フィールドに正対（サイドステップの実践）

逆にオフサイド判断はウエイトアンドシーを実践する

オフサイド判断に自信ある場合、レフリーが気付くまでフラッグアップすること

フラッグの持ち方・所作

⇒基本的に左手で持ちフラッグアップの際に右手に持ち替える

4. 総評

事前ミーティング・・・

主審とのコミュニケーションが円滑になるのと、アシスタントレフリーとの挟み込みの動きによりジャッジがよりの確に行うことが出来るようになるため、シニア委員会として今後推奨する

第4審判も担う本部担当との事前ミーティングは特に必要となる（試合球の圧確認は第4審の仕事とする）

シニアの試合において主審の争点が離れすぎている傾向にあり、これが試合のコントロール失う原因となっているので今まで以上の走力で主審を務めるよう奨励する

また「怪我をしないさせないプレーの徹底」という講習目的の一つにおいて有効であると認められるため、アシスタントのオフサイド判定については、キーパーとの接触が予見されない限りウエイトアンドシー実践を推奨するものとする

指導方針要望で上げた24年度規則確認、PA内での反則確認について参加者の前で説明がなされなかったもので、今後はオンラインまたはビデオ講習などで知見を広めていく方法も視野に入れて推進していくものとする